

# 食事 + 歯磨き指導と3本柱



フッ化物の洗口液でうがいをする姫島小学校の児童

全国的にみて虫歯の多い大分県の子どもたち。「生涯使う歯を大事にもらおう」と、県教委は虫歯の予防に力を入れている。特に、歯質を強化するとされるフッ化物のうがいを取り入れた姫島村で効果が表れていることから、全県的にフッ化物の活用を呼び掛ける。県教委体育保育課は「虫歯になりにくい食事の推進や歯磨き指導と併せて3本柱」で取り組みたい」としている。

昨年度の学校保健調査統計によると、県内の12歳児の虫歯（治療済み、抜けた永久歯を含む）は2・1本。全国平均（1・1本）を大きく上回り、沖縄県（2・5本）に次いでワースト2位だった。

その大分県で最も虫歯が少

# 虫歯予防物でフッ化物を

## 県教委 姫島村の改善例、全県へ

3年連続で県内最少となっている。同村は2008年度、3・9本で県内で最も虫歯が多い大分県の改善した（同課）。姫島小学校（国広精一校長、希望する児童を対象に、フッ化物を含む洗口液でうがいをする時間を設けている。歯科衛生士らがフッ化物の濃度を調整し、教員が児童に配布。児童は洗口液が口中に行き渡るよう顔を傾げながら1分間、うがいをする。このほか、学期ごとの健診や歯磨き指導、保護者対象の「歯に良い料理教室」も実施。国校長は子どもはもちろん、保護者にも歯を大事にする意識が広がりつつある」と語った。

県内の平均虫歯本数はここ5年間で1・7本減ったが、全国平均との差は縮まらず「対策が必要な状況」と同課。姫島村の成功事例を受け、県教委はことし3月、フッ化物の活用推進を盛り込んだ手引を全小中学校に配布。9月からは佐伯支援学校でフッ化物の利用を始める予定にしている。

同課の阿部辰也安全対策・管理監は「フッ化物による健康被害を心配する声もあるが、これまでに被害例は1件もない。洗口液は誤って飲み込んでも問題がない濃度で心配はない」と強調。「歯を守ることは健康寿命を延ばすことにつながる。永久歯が生ええう小中学生の時期に歯を丈夫にする取り組みが必要だ」としている。

「生涯使う歯を大事にしてもらおう」と、大分県教委は虫歯の予防に力を入れています。

②大分県内で最も虫歯が少ない市町村はどこで、それはなぜでしょう。

①昨年度の大分県内の12歳児の虫歯は何本で、全国ワースト何位でしょう。

③虫歯にならないためには、どんなことに気を付け、実行していけばいいか考えてみよう。

(2013年9月24日朝刊25面)